

シュローダー・スナップショット マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し



2026年1月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ




株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
強気の見通しを維持しています。米国を筆頭に、好調な企業業績が支援材料となっています。ただし、バリュエーション高騰や地政学的リスク、情報技術や人工知能（AI）関連銘柄の上昇の持続可能性を注視しています。	弱気の見通しを維持しています。米国債券市場は米金融当局の積極的な利下げを織り込んでいますが、経済成長や堅調な消費者動向を踏まえると、利下げ予想は過度であると考えます。	中立の見通しを維持しています。バリュエーションは割高な水準にありますが、穏やかなインフレ・安定した経済成長というマクロ経済環境が支援材料になると考えます。	金属およびエネルギー市場における供給逼迫のほか、原油価格の水準を踏まえると上昇余地があると考えます。ただし、地政学的要因のコモディティ市場への影響は不確実であり、見通しを中立に引き下げました。




資産クラス	分類	見通し
株式	米国	強気の見通しを維持しています。労働市場は「雇用も解雇も低い水準」にあり安定しているとみています。また、消費者関連の経済指標も底堅さを示しています。
	欧州	中立の見通しを維持しています。大型銘柄以外にも上昇が波及しており、業績修正も底打ちの兆しがあります。ただし、欧州株式は相対的にデフレンシブ性を有しており、足元の環境を考慮し、中立とします。
	日本	経済成長を促す政策は支援材料になると考えますが、直近の株価上昇を踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	中国について、輸出業の堅調さを好感するものの、内需関連セクターの低迷を背景に中立の見通しとします。台湾や韓国については、半導体やAIインフラに対する需要が支援材料になると考えますが、関税や政治要因を巡る不確実性を踏まえ、中立としています。
	新興国	中立の見通しを維持しています。バリュエーションは良好であるものの、中国に対する見通しから、中立の姿勢とします。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し	
国債	米国		弱気の見通しを維持しています。米国の財政懸念から、イールドカーブはさらにスティーピングする可能性があるかとみています。
	欧州		見通しを中立に引き上げました。ドイツの財政拡大に関する懸念は、既に金融市場に織り込まれたと考えます。
	新興国 (現地通貨建て)		見通しを強気に引き上げました。ドル安や魅力的なキャリー、一部新興国におけるファンダメンタルズの改善が支援材料になるとみています。
	米国インフレ 連動債		中立の見通しを維持しています。2026年にインフレが再燃するリスクはありますが、バリュエーションは魅力的ではないとみています。
投資適格 社債	米国		中立の見通しを維持しています。バリュエーションは割高であり、M&Aの増加やAI関連の設備投資増額によるレバレッジ拡大の可能性を踏まえると、さらなるスプレッド縮小余地は限定的であるとみています。
	欧州		中立の見通しを維持しています。ただし、米国対比での選好姿勢を維持しています。バリュエーションは割高であるとみていますが、銀行銘柄のファンダメンタルズが堅調であると考えます。
	新興国 (米ドル建て)		中立の見通しを維持しています。米国クレジット市場と比較するとスプレッドは魅力的で、金利感応度も低く、レバレッジ拡大のリスクは限定的であると考えます。ただし、バリュエーションは割高であると考えます。
ハイイールド 社債	米国		中立の見通しを維持しています。スプレッドは歴史的な水準に縮小していますが、企業のバランスシートは健全な状況にあると考えます。
	欧州		中立の見通しを維持しています。魅力的なヘッジ後利回りや良好な経済環境が支援材料になると考えますが、その他のリスク性資産へのエクスポージャーを優先する方針とします。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 強気の見通しを維持しています。金に並び、地政学イベントに対するヘッジ機能を期待しています。ただし、供給増の可能性を踏まえ、価格動向を注視する方針です。
	金	 強気の姿勢を維持しています。政治的不確実性が高まる中、分散投資効果を期待しています。また、各中央銀行による需要も追い風となっています。
	産業用金属	 見通しを中立に引き下げました。ニッケルなど、一部の産業用金属価格の急騰を考慮し、反落を警戒しています。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 弱気の見通しを維持しています。ドルに対する信認低下、米国の財政赤字拡大など、構造的なドル安要因が存在すると考えます。
	ユーロ	 強気の見通しを維持しています。欧州経済のダウンスайдリスクが低下したとみています。欧州中央銀行（ECB）が政策金利を据え置くとの見方も、ユーロ相場の安定につながると考えます。
	日本円	 中立の見通しを維持しています。財政・金融政策を考慮すると、短期的には米ドル円はレンジ相場が続くと考えます。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デュレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

【本資料に関するご留意事項】

- 本資料は、情報提供を目的として、シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッド（以下、「作成者」といいます。）が作成した資料を、シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が和訳および編集したものであり、いかなる有価証券の売買の申し込み、その他勧誘を目的とするものではありません。英語原文と本資料の内容に相違がある場合には、原文が優先します。
- 本レポートは、Schroders Investment Management Limitedが海外の機関投資家向けに作成した資料を、シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社が翻訳・編集したものです。本レポートは、シュローダーのグローバルベースの一般的な取り組み・考え方を紹介する目的で作成しており、日本の投資者を対象としない内容を含む場合があります。
- 本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。
- 本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、弊社はその内容の正確性あるいは完全性について、これを保証するものではありません。
- 本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。
- 本資料中に個別銘柄についての言及がある場合は例示を目的とするものであり、当該個別銘柄等の購入、売却などいかなる投資推奨を目的とするものではありません。また当該銘柄の株価の上昇または下落等を示唆するものでもありません。
- 本資料に記載された予測値は、様々な仮定を元にした統計モデルにより導出された結果です。予測値は将来の経済や市場の要因に関する高い不確実性により変動し、将来の投資成果に影響を与える可能性があります。これらの予測値は、本資料使用時点における情報提供を目的とするものです。今後、経済や市場の状況が変化するに伴い、予測値の前提となっている仮定が変わり、その結果予測値が大きく変動する場合があります。シュローダーは予測値、前提となる仮定、経済および市場状況の変化、予測モデルその他に関する変更や更新について情報提供を行う義務を有しません。
- 本資料中に含まれる第三者機関提供のデータは、データ提供者の同意なく複製、抽出、あるいは使用することが禁じられている場合があります。第三者機関提供データはいかなる保証も提供いたしません。第三者提供データに関して、本資料の作成者あるいは提供者はいかなる責任を負うものではありません。
- シュローダー/Schroders とは、シュローダー plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。
- 本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。